

# 産業建設委員会記録

令和3年2月5日（金）  
13時15分～14時17分  
第3委員会室

【委員】串崎委員長、飛野副委員長

川上委員、野藤委員、笹田委員、布施委員、道下委員

【委員外】なし

【議長団】なし

【事務局】近重書記

---

## 議題

- 1 産業建設委員会の取組課題について（委員間で協議）

- 2 その他

以上

## 【議事の経過】

〔 13 時 15 分 開議 〕

申崎委員長

ただいまから産業建設委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。

レジュメに沿って進める。本日は執行部の出席はない。

## 1. 産業建設委員会の取組課題について（委員間で協議）

申崎委員長

先日の産業建設委員会にて笹田委員から提案があったように、第一ビルサービスとの意見交換を経て、各委員どのようなことを思ったかご意見をいただきたいと思う

もう1点、タブレットに提言という形で作成し案を配信している。これを下敷きに今後どのようにしていくかを話したい。では議題1について、皆からご意見をいただきたい。

布施委員

自由討議なので自分の思いなどをまず言って、第一ビルサービスがもう「はまのお魚市場」を指定管理することは決まっている。先日の産業建設委員会後に笹田委員と話したが、人がはまのお魚市場に来ることも大事だが周辺を盛り上げる策が全然ないので、商港や埋立地、その辺を踏まえての自由討議という感じでよいか。

申崎委員長

皆はどうか、それでよいか。

（ 「はい」という声あり ）

笹田委員

前回第一ビルサービスから話を聞いて、皆から意見を述べたが、執行部も同席しある程度想像したと思う。どんな絵を描かれたか聞いてみたかったため、自由討議を提案させていただいた。

私としては第一ビルサービスはいろいろな指定管理を受けて観光には長けた面があるように感じたが、地元の人を呼び込むという面ではまだまだ手薄に感じた。私としては申し上げにくいのだが、以前のお魚センターとかわりばえしない施設になるのだろうかという危惧が生まれたので、そうしないためにも皆で意見をぶつけ合って、提言なりよりよい意見を委員会として出す必要があるのではと思ったので提案した。

先ほど布施委員からもあったように、はまのお魚市場だけではなく、あそこを核として全体を描いていくと、うちの委員会では執行部へ言い続けてきたのだがそういうところもなかったし、私としては不安しかない。今の市の状況説明で、果たして本当にあの施設が市民に喜ばれて、市民に必要な施設になるのかということ、今の状況だと難しいのではと感じたので皆の意見を伺いたい。

布施委員

私もそう思う。前のお魚センターと一緒にあってはいけないという思いは皆共通していると思う。エリアでの特色はこ

ういうものがあります、こうしますはよいが、浜田市民のニーズと合致しているかが見えてない。コンセプトであるここにしかないとびきりいいものをそろえても、それを浜田市民が求めているのか。江津の風の国ではうまくいったかもしれないが浜田には浜田の事情があるし、本当に分析が合っているのか。

ただ、スタートするのに私らが手綱を引いてはいけない。そのためには、家族といった限られた人だけではなく年代を超えて、子どもが行って買い物はしないがその周辺で、前あったサテライト保育室や公園があれば。今漁港には公園がない。子どもが遊べるものを近くに設置するとか。浜田市民はちょっとした外出が好きなので桜といった樹々があれば。現在は低木のつつじがあるが。今の状態だと建物自体も本当にオープンするののかと思えるのだがイメージ的に色が非常に寂しい。そういった中でこれを機に周辺を変えるような。看板一つにしても。そういったところが全然見えない。そういう部分が足りないのでは。

笹田委員

とびきりいいものを独自加工して高く売るという発想を言われたが、観光客目当てやたまにしか来ない人を対象としているならそれでよいが浜田市民がそれを買うかという、なかなか難しいのではと思う。

僕らの世代は所得も多くないし、子育て大変なときは安くてよいものを買って求める習性があるので。家族連れが来られる環境を整備してもなかなか手が出せないと僕自身も思った。

あと思ったのが「はまだお魚市場」だと、元々提言したあそこに第一次産業がそろおうというイメージを持ってほしかったのだが、お魚しかないと思われる。だからネーミングももう少し考えてほしかった。結局魚しかないと言っている施設になってしまう。魚を買って求める人しか来ない。野菜も置いていると思えない。

飛野副委員長

今の話とよく似た話になるかもしれないが、3月のオープンを目の前にしてここで振り返って考えたとき、産業建設委員会でもこれまでの会議でもできた。しかし、結果的に我々の意見や思いは盛り込んでもらっていなかったオープンとなっている気がしてならない。ロゴマーク一つでもそうだが結局お魚センターかという思いを持たれることを免れない。そのこともいっぱい論議してきたつもりである。農産品も以前からずっと言ってきたがそれも結局ほぼ取り入れられていない。指定管理に任せるからと先送りして、いざオープンを迎える段になって我々の意見についてはあまり取り組まれていなかったように思える。

もう一つ、エリアについてはもっとそう。第一ビルサービ

- スにエリアのことまでは言ってない。これはないと思う。第一ビルサービスだけが走ってもエリアの活性化にはつながっていかない。エリアと一緒に盛り立てるためのオープンにはつながっていないと思う。
- あと、一部オープンしないということだが、路線バスはそれについてどうなるのか。お魚センターが生まれ変わるとして旗を上げようとしたときに、このオープンの仕方では心配している。
- 川上委員 今回のコンセプトである「ここにしかないとびきりよいもの」というのが何も見えない。おまけに魚市場と書いてある。魚も揚がってないし量も少ない。ではどういうことを考えているのかが見えないので、コンセプトから見せていきたいものが見えないのが一番ネックである。中にきれいにしても誰も気づかない。せめてここにしかないよいものと言うならそれは何かを明確に見せてもらいたい。そういったところまであれば。心配ばかり。
- 笹田委員 第一ビルサービスが指定管理することはもう決まったことで、頑張っていたきたいとしか言えない。ただあれは市の施設なので市に責任がある。周りの活性化も含めて計画してビジョンを描かないといけないのは市なのである。それをずっと言い続けてきたにもかかわらず、そういうことも全然なかった。
- 布施委員 だからプロジェクトチームをつくれと我々が言って、遅くにできた。しかしそれは周辺を含めた活性化をしろ、お魚センターだけでなく周りもやれと言ったのに、出た答えは第一ビルサービスに指定管理をお願いする、中身については任せているからそれ以上の管理は市で調整すると。
- 道下委員 浜田市民の気質からして最初はどうもよくいかもしれない。それで終わりならよいがずっと営業するなら市民に愛される施設にならないと長続きしないと思う。
- 野藤委員 それが一番。誰も皆、口を酸っぱくしてそう言って、今からつくっていくのだが、市役所職員も我々も1週間に1回行くとか、方向性を見せながら仲買人や施設に入った商売屋が全体で盛り上がっていくようにしないと、浜田市の気質が出てくるともたない。はまだお魚市場がああ周辺エリアの核になる。ある議員はあれをもとのもくあみにしたのでは議員バッジを外すと言っている。それくらいの覚悟でやらないと。
- 野藤委員 皆さん各自で個人一般質問をしているが、まちの中でここは魚のまちだというイメージが全然ない。例えば境港を引き合いに出して申しわけないが、今日ほどのくらいの水揚げがあったと垂れ幕や旗が出る。それは役所と港が近いという地理的な要因もあるのだが。例えば、今日は月に一度魚の日と

- して魚を食べましょう、消費しようという日の設定。そういう情報発信や盛り上げを、市民を挙げてやらないと。できたから月に一度行こうではなく。目を向けるというか。市場も建物もきれいになった。お魚センターもはまだお魚市場になったことが常に発信される。なおかつ先ほど発言があったが農産物がないとあり、これはJ Aからも説明があったがこれから足していけば何とかかなと思っている。付帯設備として中に入らなくても、盛り上げをつくる。そうすれば本体のプラスアルファになるのかなど。周辺にある水産事業者がやっているように少しずつ。一度に全て行うのは無理なことなので。
- 布施委員 市の考え方がプラスアルファになればよいが、反対に足を引っ張るのではないかという思いがあるから、よそで農産物を売ることについて積極的でない。足し算していけばよいのだが。
- きんさい市場は周布もある、黒川もあるが、時期になったら生花がすごく売れる。花屋が売っているような高価なものでなく、仏壇や墓に供える用なのだが、しわや大きさがふぞろいではあるが、それがすごい売り上げになる。どういった花を扱うかは不明だが市民が必要なものを、店頭で臨時レジを出してできるくらいの方法ができるのか。全部正式なPOSレジを通らないと難しい部分があるかもしれない。現金売りでもよいと思う店外で実施する場合は。外の気楽さ、そういうものをもって初めてこちらへ流れを向けられる。考え方はきれいなのだが実際はどうか懸念する。
- 野藤委員 子どもが遊ぶ場。渚の交番beが宮の浦を使っておられるが、私は宮の浦をもう少し整備すべきだと思う。宮の浦へおりのも今は階段で、裏からも回れるがわかりにくい。
- 布施委員 あるものを整備しろという話か。
- 野藤委員 整備して、例えば夏時期なら海の上を少し歩けるような桟橋のようなものと、すべり台などを置くとか同僚議員が言っていたが。場所的にはよいので。
- 布施委員 笹田委員に聞くのだが、今の7号市場、はまだお魚市場、この間に駐車場があるが、浜っ子夏祭りの駐車場になるが、県の持ち物か、市の持ち物か。
- 笹田委員 県である。
- 布施委員 県か。一部公園緑化は難しいか。
- 笹田委員 あそこは第一線用地といって権利が厳しいのでほとんど建っていない。一番奥に処理場がある。あとは何も建ってない。本当は水産に関するものを入れるのが目的だったのだが入らなかった。二線用地からは自由である。だから学校給食センターができたりパチンコ屋ができたりしている。

布施委員  
 笹田委員  
 布施委員  
 笹田委員  
 布施委員  
 笹田委員

では公設仲買売場のビルも県なのか。

県である。

そうか。

今は家賃を県に払っている。

そうなのか。

壊して更地にして県に返す。だからあそこに何かするとなると今の埋立条件の中では水産関係に資するものというのがあるので、そういうものでないと利用ができない。市はあくまでも県に借りて夏祭りをしている。

布施委員

福祉環境委員会で、浜田市内に親子で楽しめる公園が少ないという意見が出たようである。県が管理している部分には規制があるのかもしれないが、車で来る社会だしバスも正式ルートは未定ながらあの近くまで来るのであれば、高齢者世代と孫世代が一緒に来るとか、家族で来て子どもを遊ばせておいて自分は買い物ができる、そういう動線をつくるのが別の意味で活性化に寄与するのではと思った。

笹田委員

何か来る目的がないと来ない。例えばあそこに公園があったら行ってみようかとなり、ついでに見てみようかということも考えられるし、そういうことも全然ない。

消防署の下のほうは市の土地なのだが、よくフォークリフトの講習会をやっているのを知っているか。ほとんど利用方法がない。あそこをタッチングプールにして海水を引いて足を浸けられるようにして何かしら公園にするとすると、海水が引けるし。それを目的に来る子どもが増えるのでは。ちょっとした遊具と海に触れられる公園があれば可能性はゼロではないかなと。あの場所は囲まれているので道路に出る必要もないし安全に遊べると思う。しかも、あの場所は利用方法が考えられていない場所なので。第一線用地よりも該当地は浜田市の土地なので。布施委員と野藤委員の話を聞いて考えるとあの場所ならそういったことは可能かと思うのだが。

川上委員  
 布施委員

周りを固める。

お魚市場を目的に来る人もそうだが、そこへ行かなくても周辺に来ることで相乗効果を狙って。本当はそこを市が考えないといけないのだが、それが全然見えてない。

川上委員

確かに駐車場のところで屋台をやれば人は来る。そういうことを考えながら展開していく必要があるのは事実である。

笹田委員

それと、あその水産事業所は物すごく頑張っている。いろいろな商品を置いて、土日には朝市を開いて、人がすごく集まっている。もうあそこを一つの動線にしてしまえばよい。するとそこに来た人が寄ってくれるかもしれないし、その逆もあるかもしれない。相乗効果で。そういう仕掛けが市にない。

- 布施委員  
笹田委員
- 市がそういうところを考えればできるはずなのだが。  
本当は市の土地なのだから。あそこの土地を全部買ったのだから。
- 野藤委員
- よく市場で包丁を並べて売るなど、いろいろある。この間も日原の道の駅に行ったときに買ったのだが。本体があって周りにすこし変わったものがあると、日替わりでなくてもよいが。1日幾らのフリースペースがあれば、物売りが来る。自由度のあるスペースは必要だと思う。
- 川上委員
- 僕らも会派で話したのだが、既存の事業所と組むことは絶対必要だと。
- 笹田委員
- 相手にとってもプラスだし。民間を圧迫するようなことをしてはいけない。
- 飛野副委員長
- 第一ビルサービスにとっては今の話は物すごくよいものである。これがあれば第一ビルサービスにとってもよい。しかしこの間の意見交換では、エリア的な話は案外少なかった。だったらどうするかといえば、浜田市が考えないといけない。  
第一ビルサービスには風の国を立て直した実績もあり期待感を強く持ったのだが、しかし今考えてみたら、実際にあのときにエリアの話が出なかった。  
この間の意見交換で我々が出した意見から、第一ビルサービスにとって得るものがあったのか。
- 近重書記
- 意見交換の中では、布施委員の意見には非常に耳を傾けておられた。
- 布施委員
- あのセットの進め方は、少し前から発想があった。魚はよいものを売りたい。野菜もセットにしたい。あとは味つけ。3者が一つの商品をつくと売り上げが伸びた。セット売りが大事なのである。しかし石見エリアではそういう発想が今までなかった。
- 笹田委員
- 僕はその話を聞いたときに、米を弥栄の米にして、水を金城の水にしたらと考えた。そういうのを集めれば面白いなど。
- 布施委員
- 物販は買い取りと委託で利益率が違うのだが、買い取りすると安くできる。賞味期限が近いものは安くなるが、農家もせっかくつくったものをほかとの兼ね合いがあるので安くするのは嫌がる。スーパーは自社買い取り。買い取りと委託で考え方が全く異なる。
- 飛野副委員長
- 酒もどぶろくも向こうから切り出されたことではないことが気になる。
- 野藤委員
- 第一ビルサービスとの意見交換が終わった後に外で雑談したのだが、浜田のとびきりよいものとはいえ、同じ日本海側に萩市もあるので魚に差異はない。あるのは塩干品が浜田は日本一で、全てのものが集められるかはわからないが、PRも含めて加工屋の数と得意分野といった情報発信が必要では

布施委員

ないかと。浜田は加工屋がすごい技術を持っている。カレイの干物も各事業者で違う。鮮魚も含めてそういうものをアピールしていくべきだと。

2年くらい前に西川議員が、干物サミットをやったらよいという提案を一般質問でした記憶がある。ああいうイベントを行うことも大事なかと。

笹田委員

笹田委員、コロナ禍で広島からの釣り客が依然として多かった。釣り客は朝から晩まで滞在している。あのエリアで朝食とかを買う。コンビニがあるとされたらそうなのだが。動線を引き込めないかという思いがずっとある。

僕らも考えたことがある。渚の交番を設立する前に何ができるかということを考えて例えば広島からのお客は魚を釣ることに興味があるわけで、釣り過ぎて処分に困っている人がいる。例えば瀬戸ヶ島で釣りをしている人には、かわりに競り行為してあげると。浜田市民に安く売れるようなことをしてもおもしろいのではないか。釣果が金に変わるかもしれない。そういうことをすれば釣り客に喜んでもらって、相乗効果で何か買って帰ってもらえるかもしれない。

布施委員

釣り客は本当に釣ることがメインで、リリースする人がいるくらいなので。

わらしべ長者市場するか。海で釣ったものを山から持ってきたものと交換する。

笹田委員

それなら話は広がるが、人口の交流もできる。

布施委員

私も残念でならない。釣り場は多いのだから、浜田には釣り以外にこういう楽しみがある。

野藤委員

船釣りをする人は、餌をまかないので、締めてやりさえすれば、近くの事業所に持ち込んで皆売る。鮮度は見ればわかるので皆買う。

布施委員

浜田水産高等学校の生徒が2年前にコンテストに出した水中ロボット。あれが今すごく実用化されて、ポリテクカレッジも海の調査にいろいろ使っているらしい。海洋調査や海底も見る。水中ロボで見たものをライブで大きい画面に映す。時期によっては回遊魚が来てとてもよいらしい。アクアスと提携して、アクアスにそういう部分を持たせるなりして。ITを使った見せ方とか。魚だけでなくサザエがどういう場所に住んでいるのか。潜る人しかわからないから。教育委員会を交えながら浜田の海洋教育で実際の様子を見せたり。

食育でもそう。7号市場に視察に行った際、実際子どもらが競りを見ながら授業ができた。八幡にしても下関にしても。しかし浜田はそれが無い。どこでやるのかとなると、新しい市場のどこかのスペースでやると。

教育委員会を交えてもよいと思う。市は横断的な考えをす



- ると言いながら全然、殻に閉じこもった発想しかしない。広がっていかない。
- 笹田委員 指定管理者を決めたらそこをお願いする思考しかない。第一ビルサービスはあくまであそこの施設の指定管理者なので、周りのことは市がやらないといけないのに、その発想もない。さっき言ったことが実現すれば人が集まる仕掛けを浜田市はもっと率先して考えないといけない、というのがこの委員会委員皆の思いだろう。
- 布施委員 昔お魚センターで月1か月2回、センター祭りを常にやってなかったか。アンコウの吊るし切りとか。
- 笹田委員 やっていた。
- 布施委員 今もあるイベントはリレーマラソンと、浜っ子夏祭りと秋のBB大鍋の三つ。秋は特に各産業まつりと重なるので難しいが。もう少し入れてもよいと思うが。
- 川上委員 外で音楽イベントをやるなど、自由なイベント会場をつかってやるのも一つの手で、それだけでも10人、20人集まるから。
- 布施委員 子ども用自転車のランバイクのイベントもあの辺だった。
- 道下委員 子どもが来たら一緒に親も来る。遊ぶところが欲しい。
- 布施委員 夏になれば宮の浦。海に面している利点が本当でない。禁止ばかり。
- 道下委員 広島からの釣り客は、釣った魚を全て持ち帰らないこともある。浜田の野菜と交換できるようなことができないものか。
- 飛野副委員長 釣った魚の買い取りを米で支払う。そうすれば両方潤う。現金で払うより随分よい。物語が始まる。
- 道下委員 先ほど話が出た、商品を出し合って一つの商品にするという案、盛り上がっていくのはすばらしい。
- 布施委員 アイデアはどんどん出てくる。それに気づかせるのが行政の役目なのだが。行政は現場で汗をかくことは絶対にしないが、考えることはできる。産業建設委員会から言われたら、発言の意味はわかるが、自分のことになる。議員さんそう言われますが誰がするのかと言われる。そこでつまずいてしまう。それを探すのも仕掛けづくりも行政の役目なのである。水産業の水揚げ高が100億と言いながら現在3分の1だ。3分の1で終わってはいけないと誰もが思っている。少しでも近づくためには、関連商品の開発や人を集めることをしないと。
- 水産業だけではだめだからほかの第一次産業物と併せて売り上げる。産業建設は農業から水産から商業までつながっているのに、単体なのである。危機感がない。
- 串崎委員長 ほかに言いたいことがあれば。
- 川上委員 たくさん出た。
- 笹田委員 今日は建設的な意見がたくさん出た。

川上委員  
布施委員

本当に入れてくれるかどうかはこれだ。

議長から言われたが、2月24日に委員長の途中経過報告をやらなければだが、第一次産業をやる分についてはよいので、委員会としてこういう意見を持って盛り上げようと思っている。そのためには執行部の力強い働きがないとできないと。

そこはよいが、エリアはよいのか。商港の問題にしても埋立地にしても。市長は埋立地については待つ立場であるが。

野藤委員  
川上委員

国が延伸するではないか。福井港のほうは。

まないたの上ののってしまったからそれはそれとして見ておこうと。同時に工事に入ったら人を疎外する部分が出るので、その辺を注視しないといけないなど。

布施委員

輸出業は調子がよいみたいである。新聞に掲載されたが。前年より大分よいと。韓国との貿易にしても。

漁船はどうか。リシップはあれだが、巻き網。JFは補助金の問題で叩かれているが、ああいうのをやったときに何か統を維持できるのか。

笹田委員  
布施委員  
笹田委員

ぎりぎりだろう。

私らはあの辺は考えなくてよいのか。

国がやっている新船の案件はJFと県とで一緒にやってもらうしか方法がない。うちらがやれるとしたら、一艘びきの底びきを何とかして持ってこれるか。違う体系のものを考えることはハードルが高い。法律のこともあるし。そういうことを提言というか、可能性として探ってもらいたいというのはあるかもしれない。

川上委員  
笹田委員  
布施委員

しかし浜田沖に漁場が形成されないと難しいのでは。

底びきはどこでも行くので。

一艘びきならできる可能性はある。一艘びきでも浜田で水揚げできるようなものを構築せよということか。

笹田委員

例えば浜田で船を建造して、1日で漁に行って帰ってこられる。二艘びきは1週間出るので。若い人でもノウハウを持っていれば二艘びきみたいに遠くに行かなくても近くでひく。そこに入ったものを1日の水揚げとしてやる方法があるので。ノドグロは大田のものがよいという声を聞く。その日に上がってくるので。

道下委員

漁場の絡みもあるだろう。浜田でそういうのを国が認めるか。

笹田委員

漁場に関していうとルールがあまりなく、都道府県で決まっている。島根県が禁漁にしても山口県が禁漁しなければ獲られてしまう。全国統一で行わないと意味がない。

布施委員

サイズが基準を満たさない場合はリリースできるように網目のサイズを大きくするといった対応があるが、島根県だけが守っても全国で守らなければ意味がないな。

- 笹田委員　　ここからここまでが島根県の海だというルールがない。だから島根県の人が出ても獲れるし逆に中に入っても獲れる。海には境目がないので。国としての境目しかない。現在、排他的経済水域として韓国とEZZで一緒に獲れる漁があるが、それも両国で漁の方法が異なるから問題になっている。韓国は認められているが日本で禁止されていると韓国の方が多く獲ることができる。水産業は国際的にはまだまだ問題が多い。
- 道下委員　　船の件でいえば新船をとにかく国から認めてもらって助成してもらおう。あとは1艘びきを入れることを視野に入れて働きかけたり。
- 笹田委員　　調べたのだが、刺し網も今はだめである。昔は甘鯛びきというのがあった。それなら小さい船でも引ける。100メートル以内で引く。そういうのももしかしたらおもしろいかなと。
- 野藤委員　　昔、一本釣りのほうから反対があった。網の許可が出ていたのがエビ網だけである。直びきの餌にするだけの。開口部のサイズが決まっています。
- 笹田委員　　一本釣りなどもきちんとしたルールを訴えかける人がいない。一本釣り協議会があって、その中での取り決めがある。島根県の漁業調整規則の中のルールと、一本釣り協議会の中で浜田市のルールがある。それさえクリアになればできる漁がたくさんあるのだが。可能性として探っていないと、無理かもしれないが試験的に水産高校に実施してもらおうとか。
- 布施委員　　何のために水産高校があるのかと私も思うことがある。新しい挑戦をしてほしい。これまでの慣習を守ることも大切であるが。新しい人が新しい風を吹かせるところがいっぱいある。挑戦してほしいところがたくさんある。
- 野藤委員　　昔認められていた漁法にはまぐりを獲るのに海浜公園の周辺、船で引くのだが。鋤簾（じょれん）を。あれもだめになった。益田がハマグリを放流して鋤簾で獲るのだが、1日何時間で何キロまでと決まっている。そういう規制をかけないと全滅してしまうので。1艘びきも19トン型は6マイル以下中に入れないので巻き網も大きさを区域が決まっている。網などいろいろと規制が入っている。
- 布施委員　　第一段階はこういうものか。
- 串崎委員長　　では2番目の意見を聞きたいので、1番目は以上で。
- 皆の意見を聞いて私が感じたことを抜粋すると、まず市民に愛されることが一番。それから魚の食べる日を決めたらどうか。POSレジを通らない気軽さが大事だろうと、親子公園がない。来る目的が大事。子どもの遊び場。近隣の事業者との相乗効果が大事である。自由なスペース。加工や干物サミットという話もあった。釣り客に対して売り上げを米で払

- うとか、交流人口が増えること。海の教育をはまだお魚市場でやったらどうか。
- あと、自由なイベントで子どもを対象にということもあった。要するに市が周辺を考えるべきだという話になるのだろうと思う。
- 最後に言えば、1艘びきができるようにという話が出た。甘鯛びきは現在禁止されているが今後どうなるのかということだった。今後可能性を探っていくのだろうということと、水産高校を受け入れる。以上のような意見が出た。
- 以上のことでよいか。あとはまとめていただいて。またやらせていただく。
- 川上委員 この後の話にそのまま結びつくのだけど。今ので終わり。提言に全部結びついてしまう。
- 串崎委員長 では一応議題1は終わらせていただく。
- 2. その他**
- 串崎委員長  
川上委員
- 今川上委員が言われたように。
- 議題1で話したことが2番目のテーマについてもそのまま当てはまる。ただ、目的がここにはエリアと書いてあるが、実際には現在の市場を中心としたエリアという形で話をすれば一番よいのかなど。
- 串崎委員長  
布施委員  
串崎委員長
- これも私、昨日一生懸命つくったのだが。
- 今提言をやっているのか。
- それは、もしやるならこういう形かと思って、素案として書いています。今後提言の有無も考えて、もし提言するなら皆それぞれでこれを直してほしい。今の議題2で話したかった。
- 布施委員
- 25日というのは、提言であってもよいし、委員会で討議した中身の報告でもよいという話だったので、提言でなくてもよい。提言は、川上委員が言ったように、はまだお魚市場が中心となるエリアと言っているが、まずあそこを第一段階にどうするか、それに対して自由討議してこういう意見が出て、より一層浜田市民に愛されるためにはこういったものも、今からでも遅くないのでできるところを考えていただきたい。それが最終的な委員会の意見だったと言われたらそれでよいと私は思う。
- 川上委員
- 今日のを一度委員に提供して、もう1回見直せば何度かできると思う。
- 串崎委員長  
布施委員
- これにつけ加える。
- 委員長がせっかく汗をかいてつくったのだから。これを今の意見を加えて報告すればよい。
- 串崎委員長
- 了解した。またもう少し詰めようと思う。また気づいた点

布施委員  
串崎委員長  
近重書記

があれば事務局に言ってほしい。

24日までに素案をつくるということだろう。

24日はここを読む感じがよいだろうか。

テーマをこれにして話し合いをして、意見交換をJAや第一ビルサービスとやって。

串崎委員長

ある程度提言をつくる方向で今まとめている、と言ってもよいか。

川上委員

委員会で協議してきて、この中で第一ビルサービスがされる。それに対し自分らも再度参画して、こういう案を持っている。このことに関しては執行部もしっかり汗をかいてもらいたいという意見が出た。何もしてないわけではないのだから。

笹田委員

せっかく委員長がまとめたので、肉づけすればよい。ただ今回、浜田漁港周辺エリア活性化だが、山陰浜田港の公設市場周辺エリアということで、そういう思いを持って委員会ではやっているの、高度衛生管理型などは外してもよいと思う。先のことだから。だからそこに特化して集中して、うちらと市が連携できるように協議している形で進めてよいと思う。

川上委員  
野藤委員

そう思う。

高度衛生管理型4号が今度つくるが、観光施設、観光できるようなスペースはあまりできないと聞いたが。6号は現在ないし。

川上委員  
野藤委員  
布施委員

期待したらいけない。

期待したいのだが。

総務文教、福祉環境委員会との勝ち負けではないが、産業建設委員会は実益だから。動くものをどれだけその気にさせるかが大事である。精神論ではなく。力強く、負けずに。最初に手を挙げてやらせてくれという勢いで。総務文教から順番にとなればトーンダウンするから最初にやらせてくれというくらいで。

串崎委員長

次回は2月24日の

それでは、以上で産業建設委員会を終了する。

[ 14 時 17分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員長 串崎 利行